

## 大阪府立図書館 第三期活動評価 評価の基準等（案）

## 自己点検シートの自己評価

## I 評価欄の基準について

数値指標の目標値と実績値による評価は、第二期の評価の基準をつぎのとおり変更する

## (1) 毎年の数値目標の場合

- ① 達成というのであれば90%以上なのではないかという評価部会委員の指摘を受け、  
Bの基準を80%以上⇒90%以上とする。

併せて、Cの達成度を50%以上80%未満⇒60%以上90%未満に変更し、基本的に第二期の4段階基準を踏襲しつつ、B～Dの基準を引き上げることで第二期までより高い基準で評価を行うこととする。

	第二期（平成 25-27 年度）	第三期（平成 28-30 年度）
A：数値目標を上回る成果を達成	110%以上	110%以上
B：数値目標を達成	80%以上110%未満	<u>90%</u> 以上110%未満
C：数値目標を <u>下回った</u>	50%以上80%未満（数値目標を2分の1以上達成）	<u>60%</u> 以上 <u>90%</u> 未満
D：数値目標をかなり下回っており、大幅な改善が必要	50%未満	<u>60%</u> 未満

\* 下線部が変更箇所

- ② 単年度毎の評価とし、3年間を通じての4段階評価※は行わない。

※3年間の総括は総合評価で行う。（1、2年目の総合評価は各年度について記述する。）

## (2) 最終年度に目標値達成（最終年度に○○）の場合の1年目、2年目の評価

- A：最終年度より早く数値目標を達成  
 B：最終年度の数値目標達成に向けて順調に進捗  
 C：最終年度の数値目標達成に困難が予測される（~~前年度と同レベル~~）  
 D：最終年度の数値目標をかなり下回っており大幅な改善が必要（~~前年度より減少~~）

\* C,D について、第二期の（ ）部分を削除

## (3) 最終年度に目標値達成（最終年度に○○）の場合の最終年度の評価

- A：最終年度より早く数値目標を達成  
 B：目標達成  
 C：目標達成度60%以上90%未満  
 D：目標達成できず（60%未満）

\* 下線部が変更箇所

## II 理由欄の記載について

目標値と実績値が大きく違った場合、説明を簡潔に記入。(特記事項記載欄とする)

基本的には、評価 A、B の場合、記述しない。

### 重点目標評価シートの自己評価

- ・各年度の取組み内容に沿い、図書館の自己評価を記入。
- ・図書館の自己評価を踏まえ外部評価をしていただき、次年度取組み（最終年度は次期取組み）の参考にする。
- ・今期から◎○△×の4段階評価は行わない

(参考：第二期)

◎：目標を大幅に上回っている

○：目標に達している

△：目標達成には至っていないが、一定の進捗がみられる

×：目標達成に向けた進捗がみられない